



# 2026年5月期 第2四半期 決算説明会

2026年1月29日

三光合成株式会社  
[東証 プライム市場 7888]





## I 会社概要

## II 2026年5月期第2四半期 決算概要

## III 2026年5月期 連結業績予想

## IV 中長期の取組み

# I 会社概要



社 名 三光合成株式会社 (SANKO GOSEI LTD.)

代 表 者 代表取締役会長 黒田 健宗  
代表取締役社長 久住アーメン

本 社 富山県南砺市土生新1200番地

資 本 金 4,008百万円

創 業 1940年10月12日

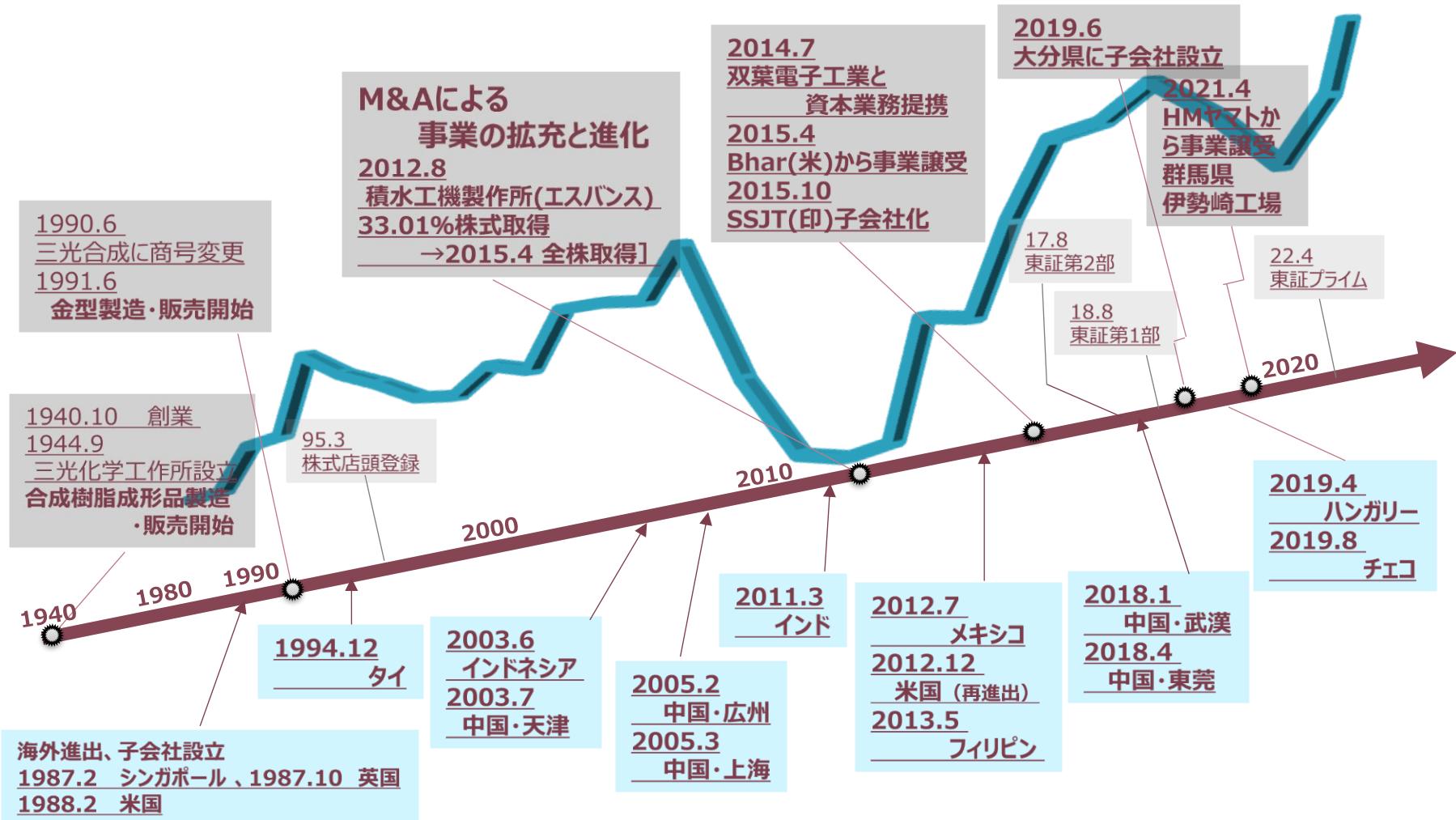
設 立 1944年 9月18日

従 業 員 単体：689名 連結：2,844名 (2025年11月末現在)

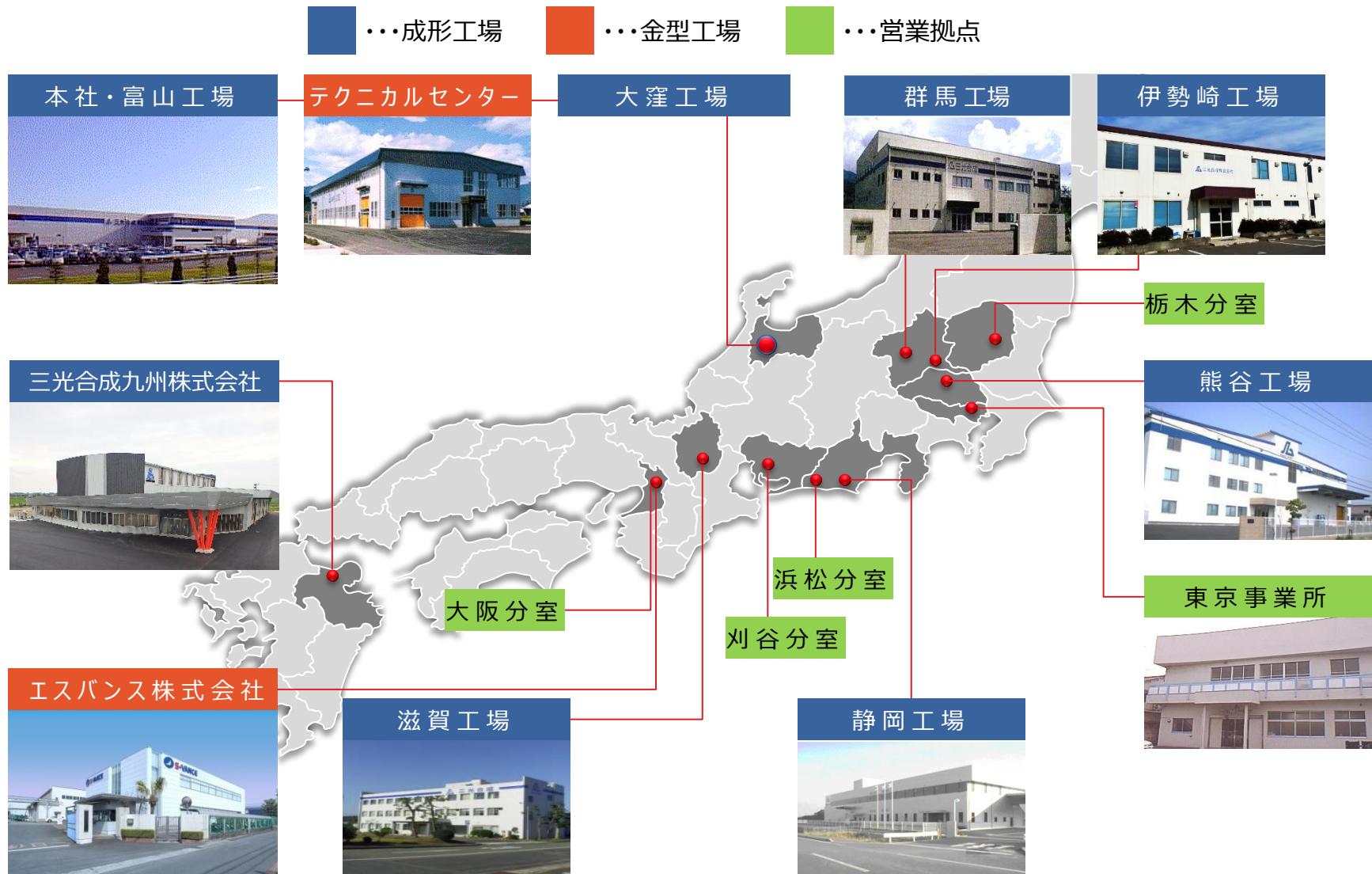
事 業 内 容

- 成形品事業
  - ・車両部門
  - ・情報・家電部門
- 金型事業

## 完成車メーカーのグローバル生産体制を支える不可欠な存在へ



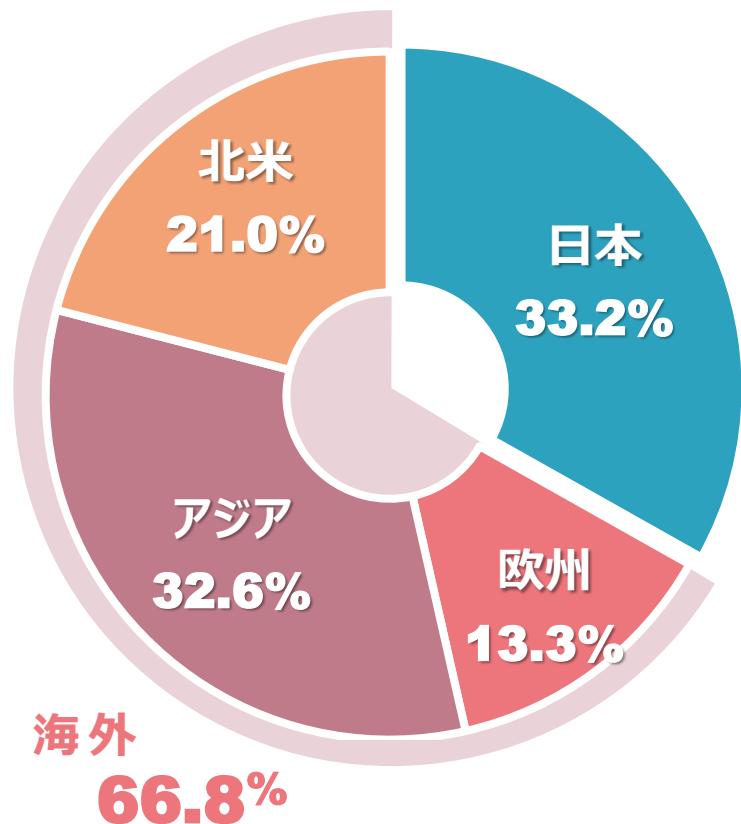
# 国内拠点 | 成形8工場 金型2工場 営業所5拠点



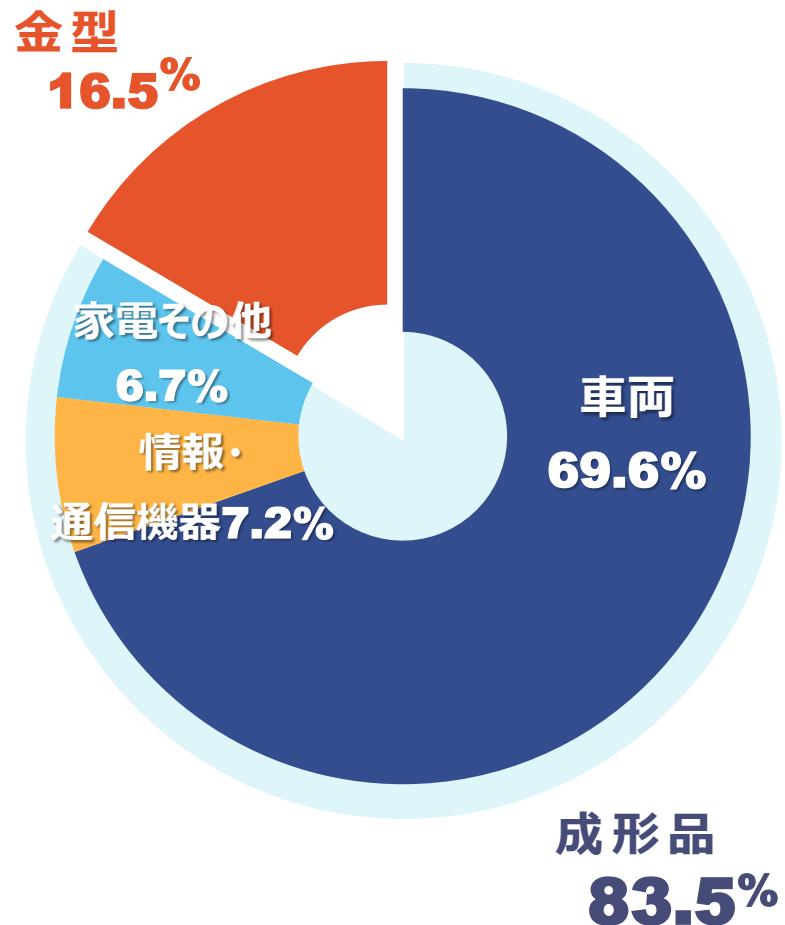
# 海外拠点 | 12ヶ国／17法人



## 地域別



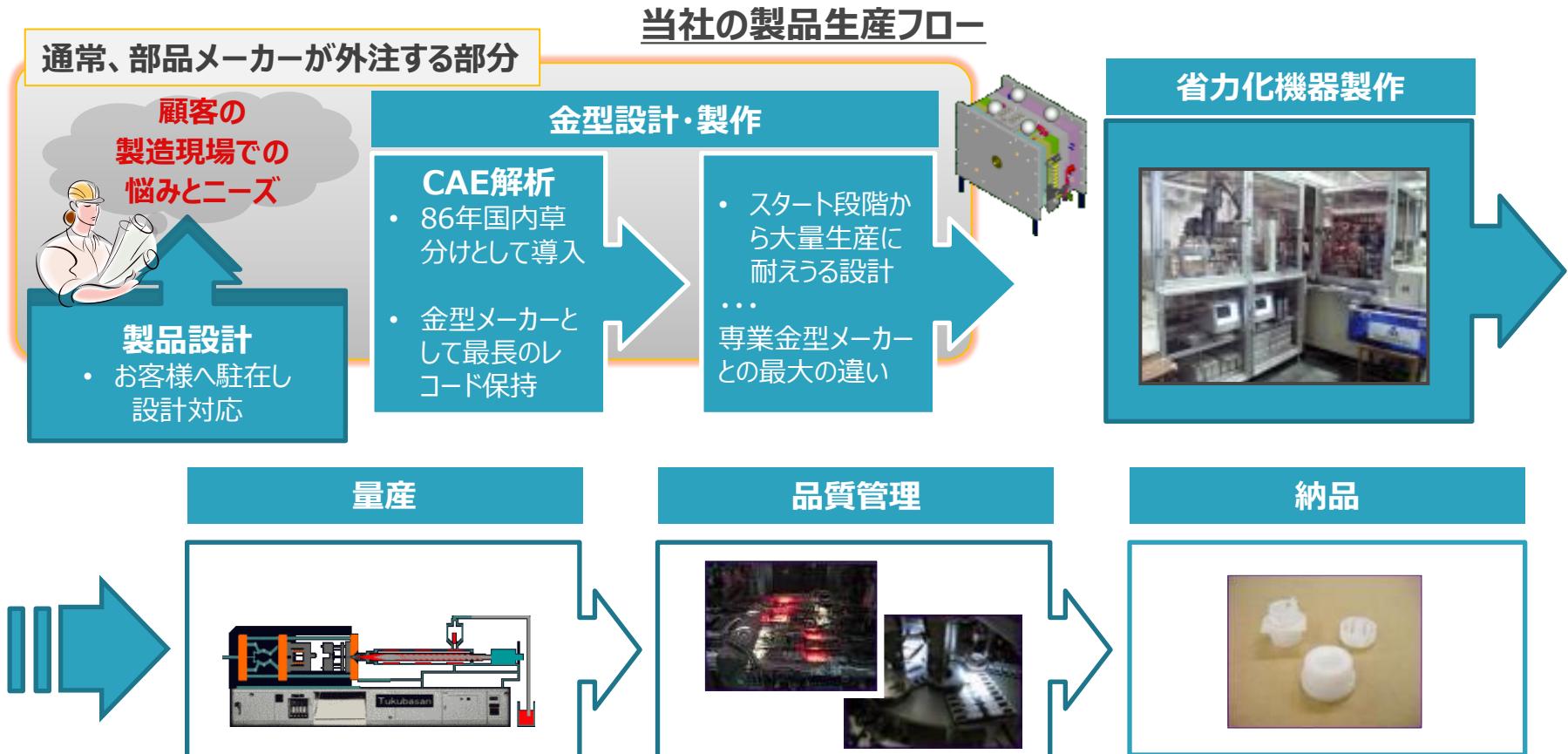
## 事業部門別



※本資料中では、構成比の数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合があります



通常、部品メーカーが外注する **金型設計・製作部門を内包**  
顧客ニーズを汲み取り大量生産に耐えうる金型を設計・製作  
大量生産開始後の不具合発生時も即ソリューション実行



## II 2026年5月期第2四半期 決算概要

2025年6月1日～2025年11月30日

# 2026年5月期第2四半期 決算総括



- 諸物価の上昇や不安定な国際情勢、長期金利の上昇など依然として先行きが不透明な状況。その中、高付加価値製品の受注と原価低減活動を積極推進し、前年同四半期比で増収増益。中間期での売上高、利益としては過去最高。

● 売上高	489 億	14 百万円	前年同期比	6.9 %	↑
● 営業利益	33 億	56 百万円	前年同期比	13.6 %	↑
● 経常利益	29 億	47 百万円	前年同期比	11.4 %	↑
● 中間純利益	20 億	72 百万円	前年同期比	7.6 %	↑

## ■ 地域別売上高

日 本	前年同期比	6.4 %	↑	158 億	27 百万円
欧 州	前年同期比	6.2 %	↓	56 億	44 百万円
ア ジ ア	前年同期比	8.0 %	↑	164 億	87 百万円
アセアン	前年同期比	6.3 %	↑	97 億	81 百万円
中 国	前年同期比	25.5 %	↑	32 億	76 百万円
印 度	前年同期比	0.5 %	↓	34 億	31 百万円
北 米	前年同期比	13.8 %	↑	109 億	54 百万円

## ■ 事業部門別売上高

成 形 品	前年同期比	6.6 %	↑	412 億	29 百万円
金 型	前年同期比	8.5 %	↑	76 億	84 百万円

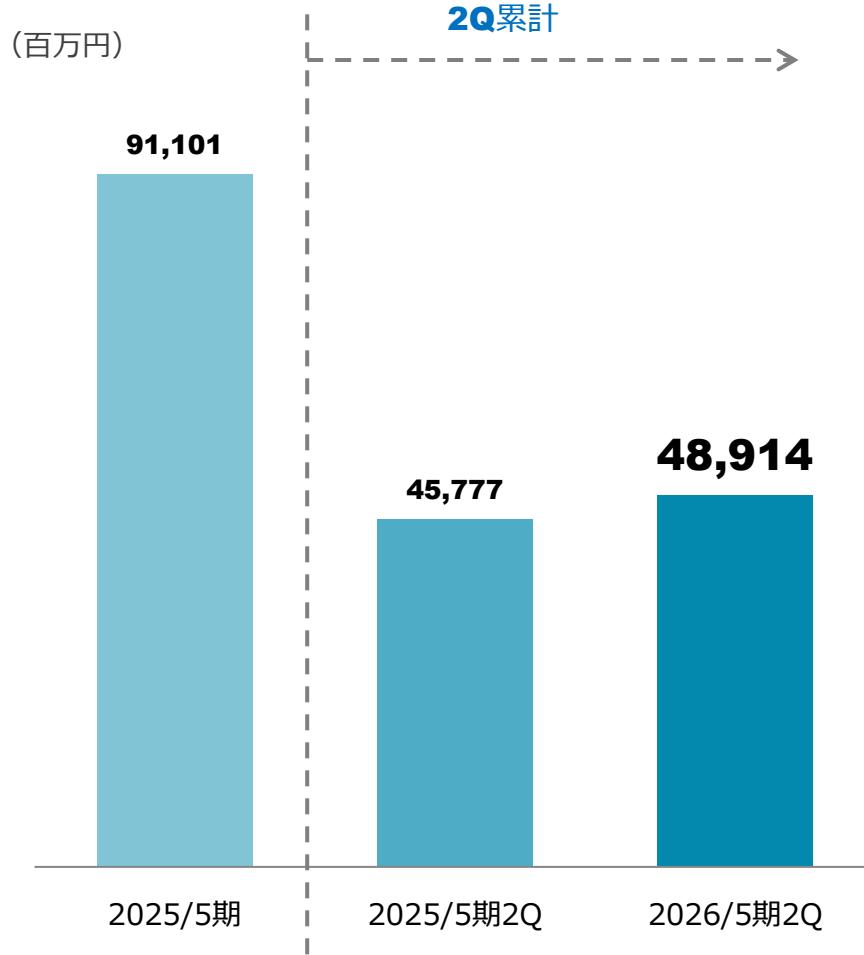
※本資料中では、「中間純利益」の表記は「親会社株主に帰属する中間純利益」を意味します

# 2026年5月期第2四半期 損益状況

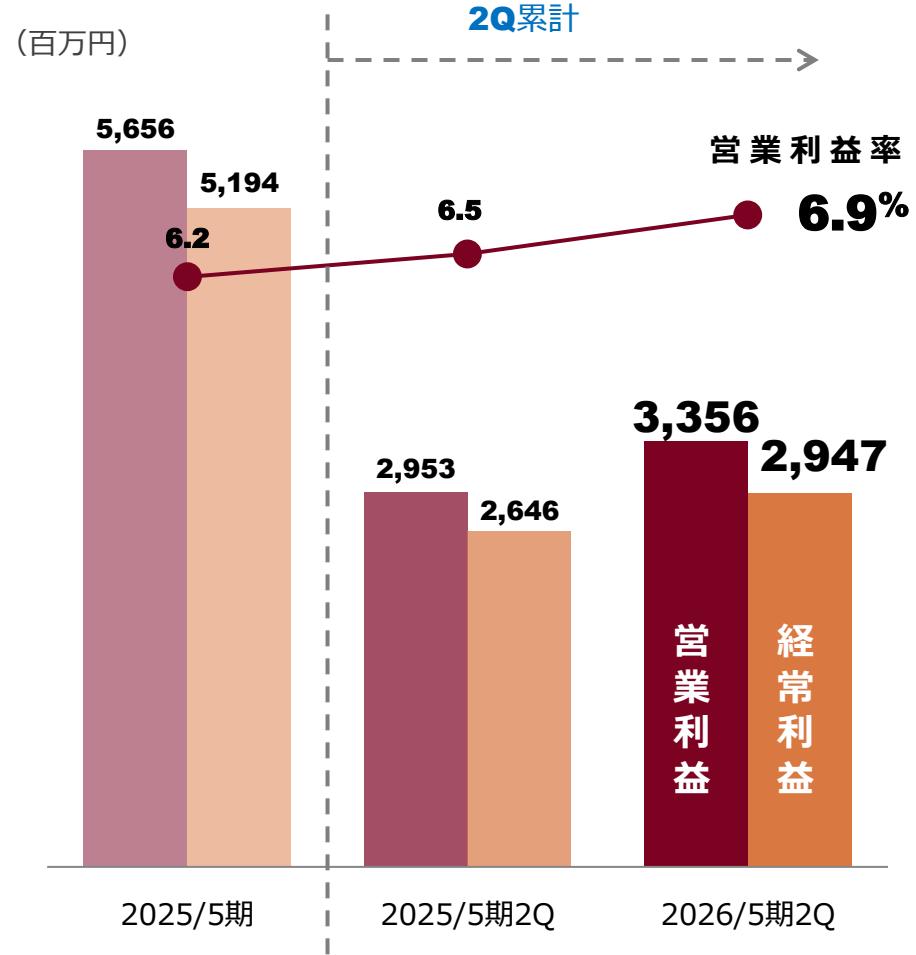


2025年5月期 第2四半期実績		2026年5月期 第2四半期実績		前年同期比		対通期業績予想、進捗			
		金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)	通期業績予想 (百万円)	進捗率 (%)
売上高	<b>45,777</b>	—		<b>48,914</b>	—	<b>+3,137</b>	<b>+6.9</b>	<b>94,000</b>	<b>52.0</b>
売上原価	<b>38,113</b>	<b>83.3</b>		<b>40,787</b>	<b>83.4%</b>	<b>+2,674</b>	<b>+7.0</b>	—	—
売上総利益	<b>7,664</b>	<b>16.7</b>		<b>8,126</b>	<b>16.6%</b>	<b>+462</b>	<b>+6.0</b>	—	—
販管費	<b>4,710</b>	<b>10.3</b>		<b>4,770</b>	<b>9.8%</b>	<b>+60</b>	<b>+1.3</b>	—	—
営業利益	<b>2,953</b>	<b>6.5</b>		<b>3,356</b>	<b>6.9%</b>	<b>+403</b>	<b>+13.6</b>	<b>6,100</b>	<b>55.0</b>
経常利益	<b>2,646</b>	<b>5.8</b>		<b>2,947</b>	<b>6.0%</b>	<b>+301</b>	<b>+11.4</b>	<b>5,500</b>	<b>53.6</b>
中間純利益	<b>1,927</b>	<b>4.2</b>		<b>2,072</b>	<b>4.2%</b>	<b>+145</b>	<b>+7.6</b>	<b>4,000</b>	<b>51.8</b>

## 売 上 高

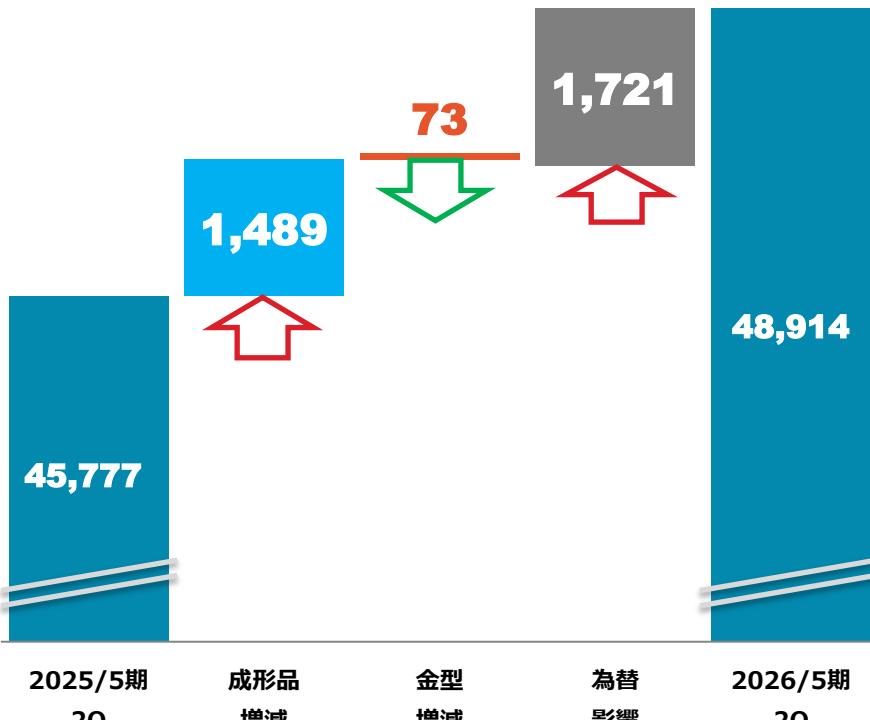


## 営業利益・経常利益／営業利益率



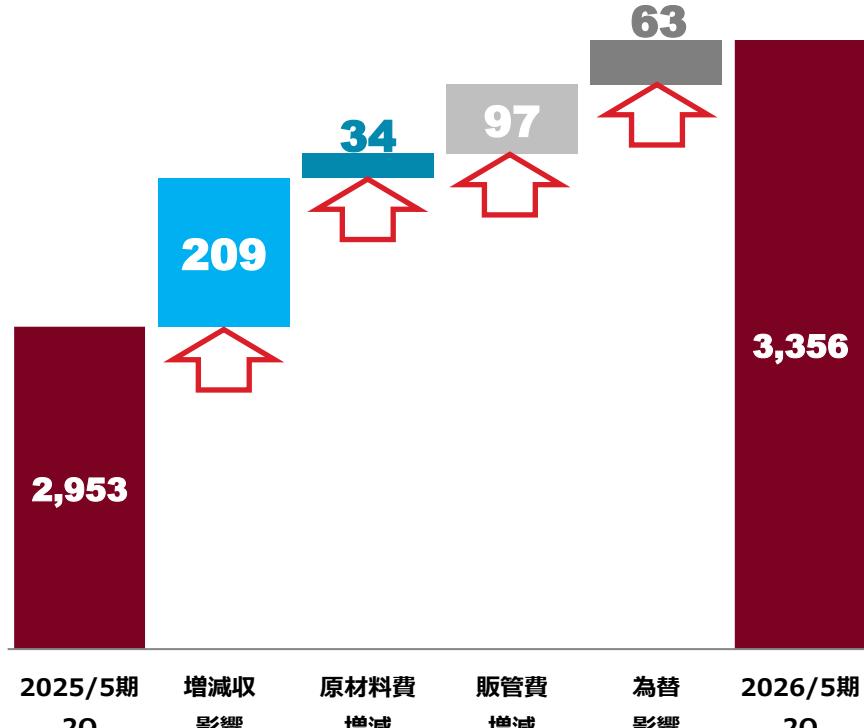
## 売上高

—— **3,137↑** ——  
(百万円)

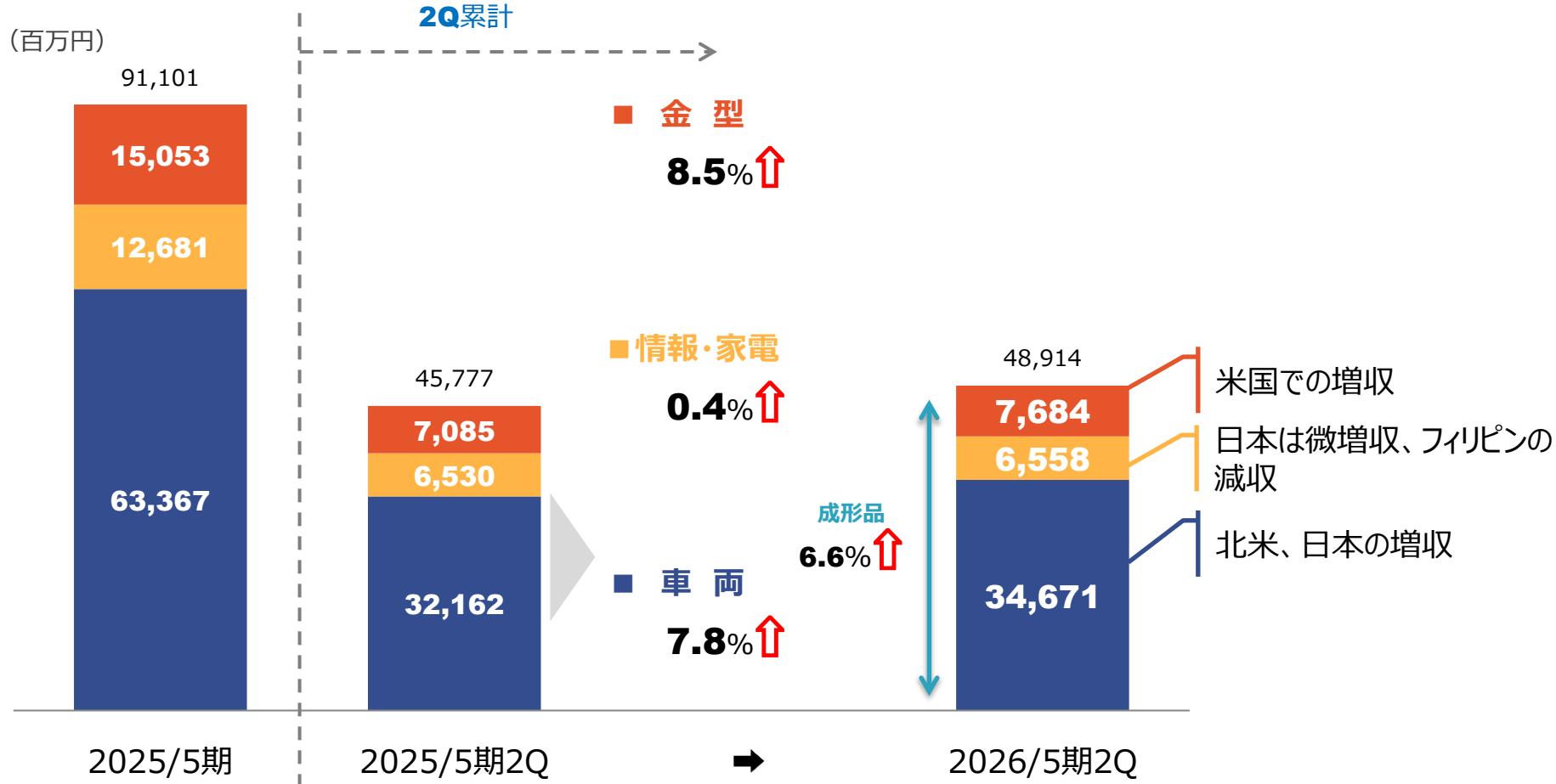


## 営業利益

—— **403↑** ——  
(百万円)



## 事業部門別売上高

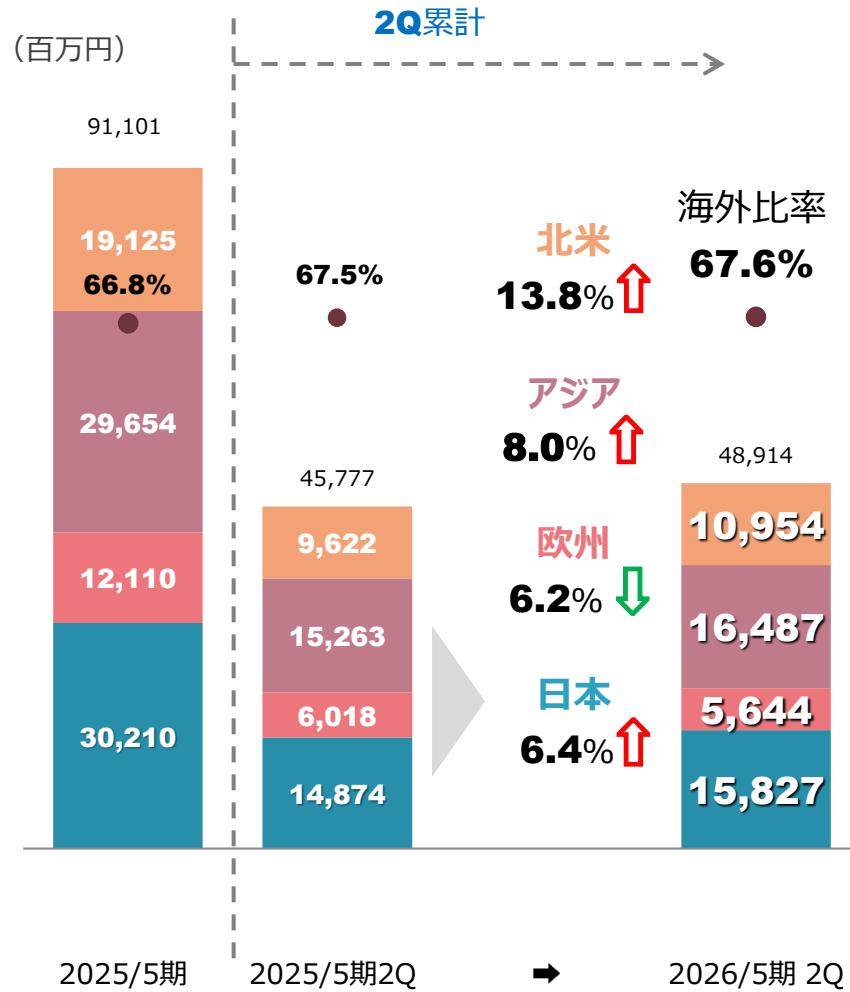


※本資料中では、各内訳数値の単位未満の端数処理の関係でその計と合計が一致しない場合や増減率の数値が一致しない場合があります

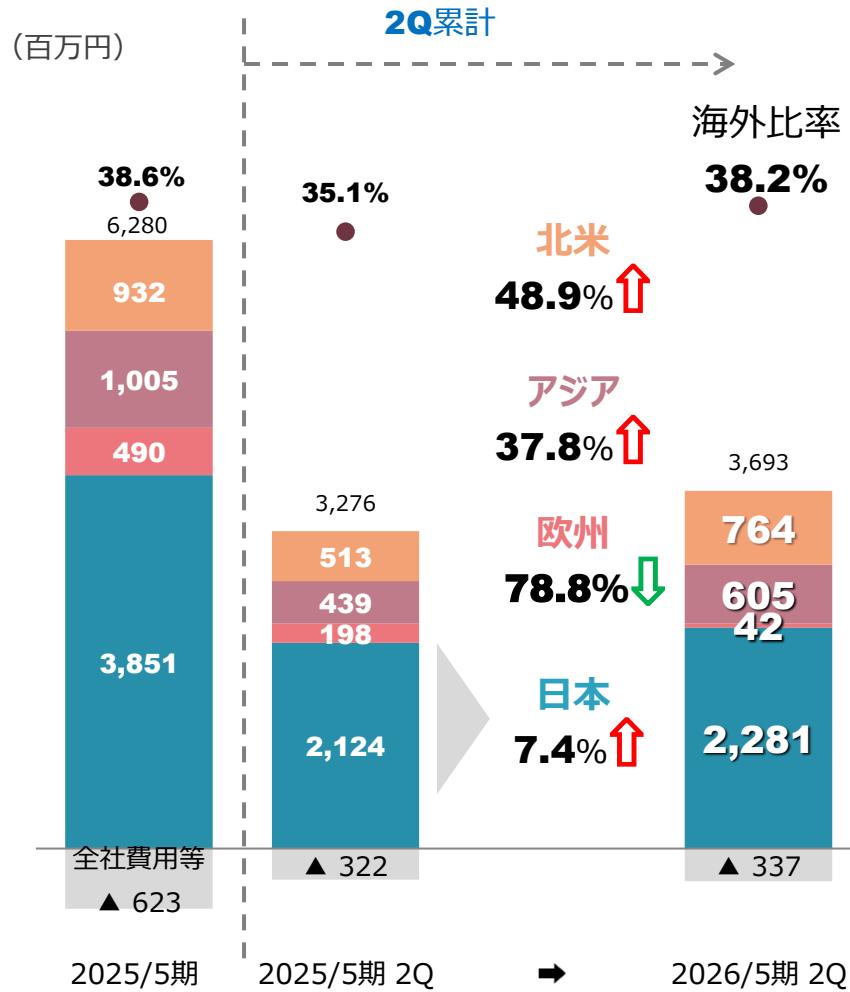
# 地域別売上高・営業利益の推移



## 地域別売上高／海外比率



## 地域別営業利益／海外比率



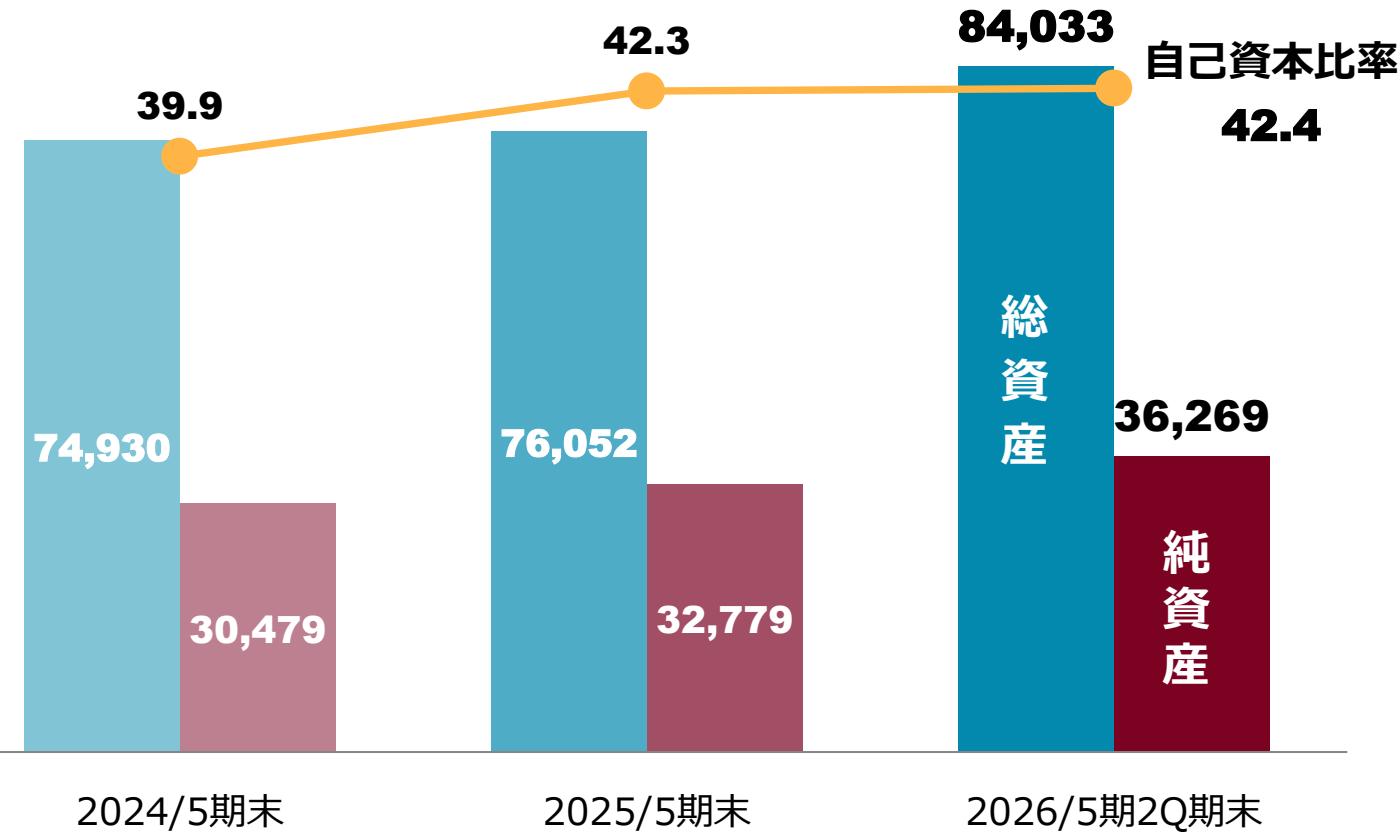
# 2026年5月期第2四半期 財務状況



2025年5月期末 2025.5.31			2026年5月期第2四半期末 2025.11.30			前期末比増減額／主な増減要因 (百万円)	
	(百万円)	構成比 (%)	(百万円)	構成比 (%)			
■ 流動資産	40,097	52.7	45,008	53.6	+4,911	現金・預金	+2,155
■ 固定資産	35,954	47.3	39,025	46.4	+3,071	有形固定資産	+3,118
資産合計	76,052	100.0	84,033	100.0	+7,981		
■ 流動負債	26,180	34.4	25,704	30.6	▲476	短期借入金	▲2,520
■ 固定負債	17,092	22.5	22,060	26.3	+4,968	長期借入金	+4,970
負債合計	43,272	56.9	47,764	56.8	+4,492		
純資産合計	32,779	43.1	36,269	43.2	+3,490	利益剰余金	+1,645
負債純資産合計	76,052	100.0	84,033	100.0	+7,981		

## 総資産・純資産／自己資本比率

(百万円)



# 2026年5月期第2四半期 キャッシュ・フロー状況



	2025年5月期 第2四半期	2026年5月期第2四半期	主なキャッシュ・インフロー／アウトフロー(百万円)
	(百万円)	(百万円)	
■ 営業活動によるキャッシュ・フロー	3,709	3,949	税前中間純利益 減価償却費 +2,922 +2,246
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー	▲2,527	▲3,305	有形固定資産取得 ▲3,236
フリー・キャッシュ・フロー	1,182	644	
■ 財務活動によるキャッシュ・フロー	▲173	858	長期借入金借入 長期借入金返済 短期借入金純減 +6,540 ▲1,814 ▲2,530
現金及び現金同等物の 増減額	898	2,155	
現金及び現金同等物の 期首残高	9,958	12,029	
現金及び現金同等物の 期末残高	10,857	14,185	

### III 2026年5月期 連結業績予想

2025年6月1日～2026年5月31日

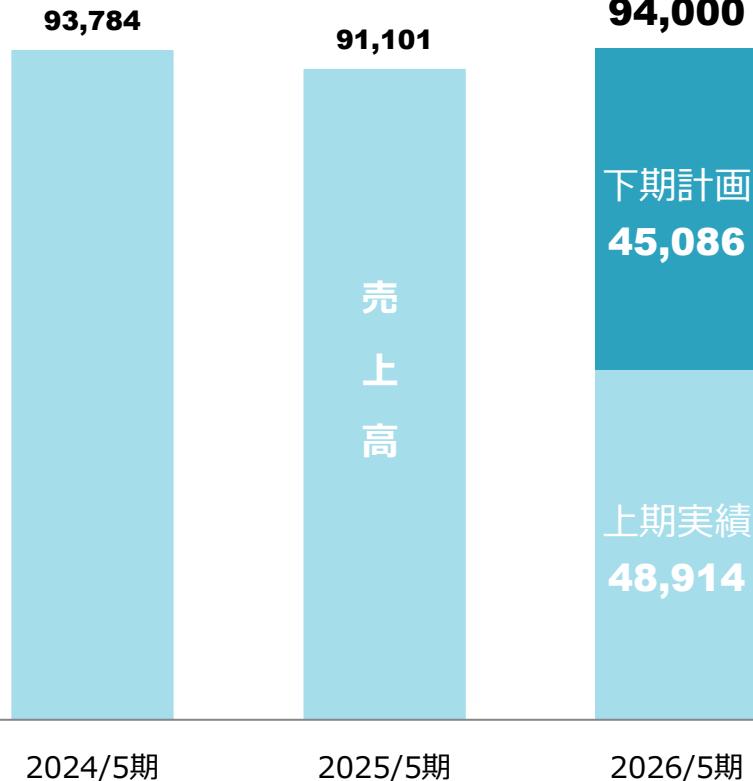


- 先行き不透明な状況が続くが、引き続き高付加価値製品、金型の受注活動を積極化とともに、安定した収益構造の確保と経営体質の強化を図る。
- 売上高、利益で過去最高を更新し、增收増益を目指す。

	2025年5月期 通期実績		2026年5月期 通期計画			前 期 比	増 減 率 (%)
	金額 (百万円)	売上高比 (%)	金額 (百万円)	売上高比 (%)	増減額 (百万円)		
売上高	91,101	—	94,000	—	+2,899	+3.2	
営業利益	5,656	6.2	6,100	6.5	+444	+7.8	
経常利益	5,194	5.7	5,500	5.9	+306	+5.9	
当期純利益	3,857	4.2	4,000	4.3	+143	+3.7	
1株当たり 当期純利益	126. <sup>53</sup> 円	—	131. <sup>21</sup> 円	—	+4. <sup>68</sup> 円	—	
1株当たり 配当金	24. <sup>00</sup> 円	—	28. <sup>00</sup> 円	—	+4. <sup>00</sup> 円	—	
ROE	12.4%		12~13% (予想)				

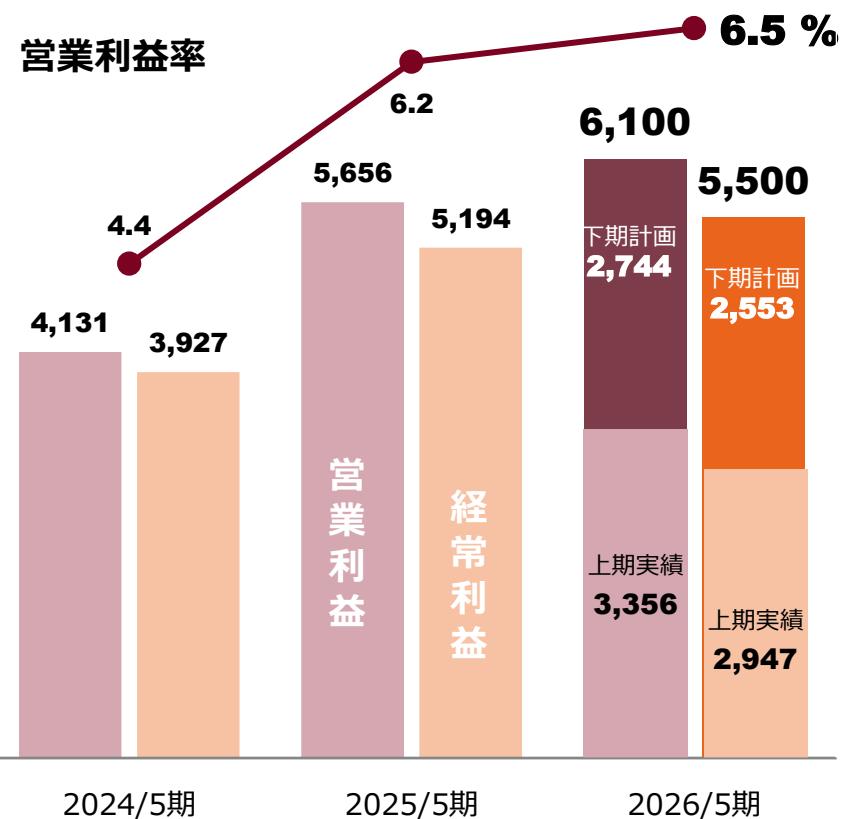
## 売上高

(百万円)



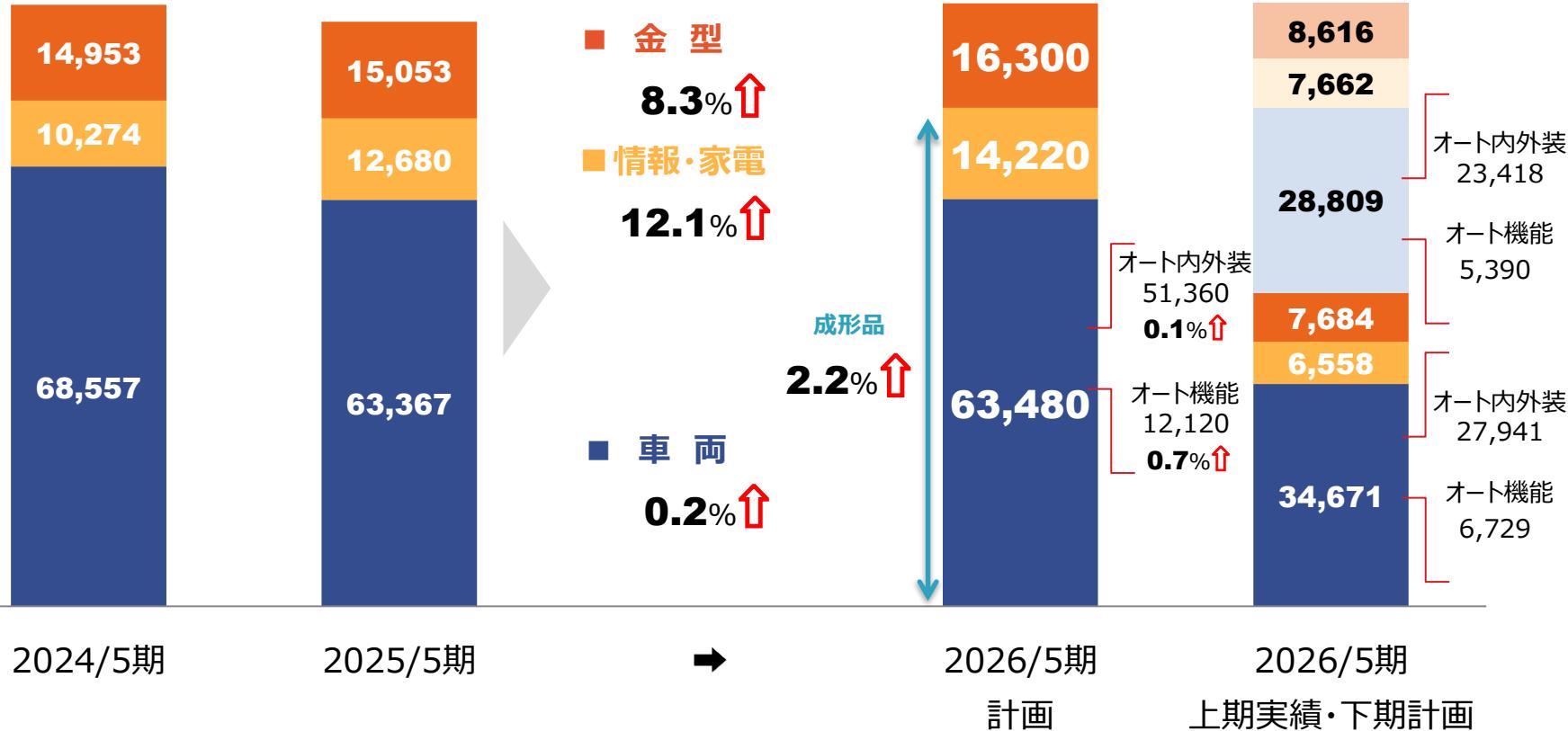
## 営業利益・経常利益／営業利益率

(百万円)



## 事業部門別売上高

(百万円)

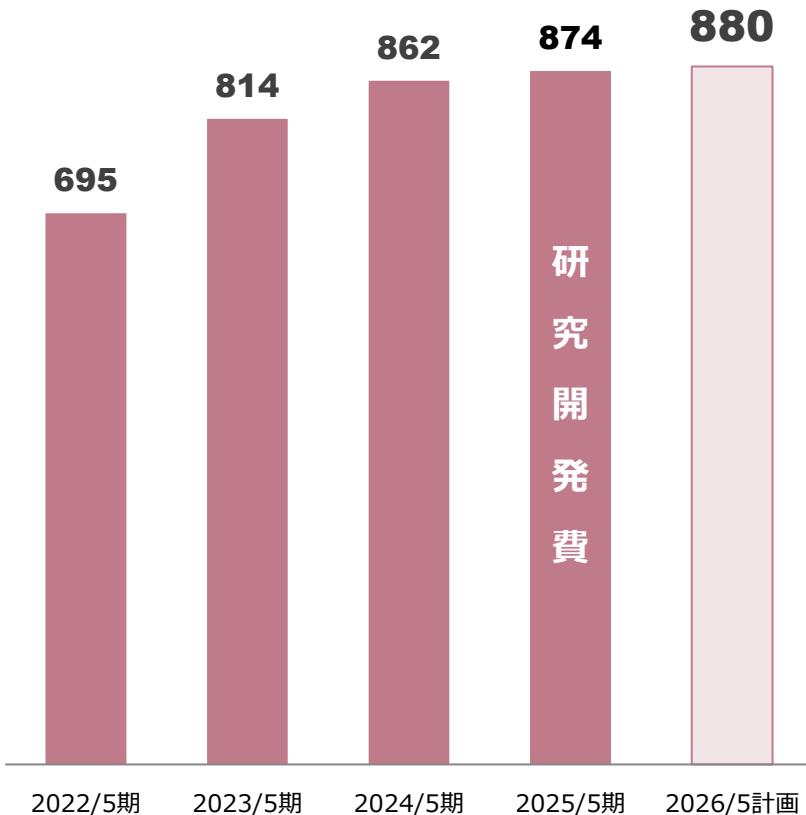


# 研究開発費、設備投資額・減価償却費の見通し



## 研究開発費

(百万円)



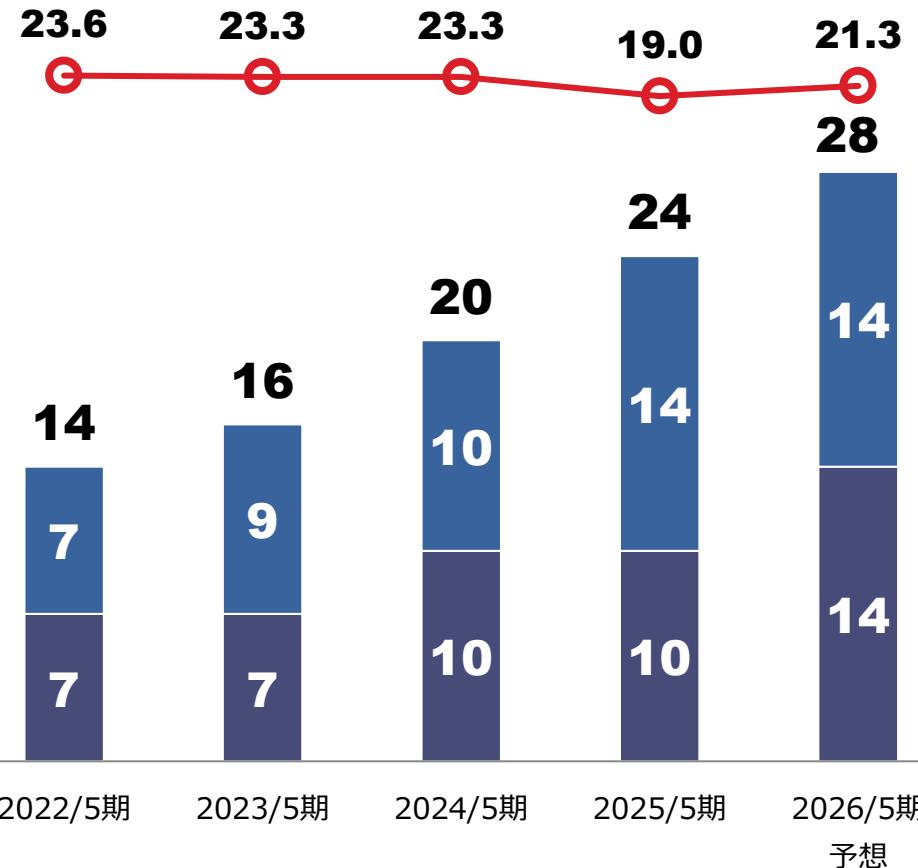
## 設備投資額・減価償却費

(百万円)



## 年間配当金の推移

■ 第2四半期末配当（円） ■ 期末配当（円） ■ 配当性向（%）



配当基本方針

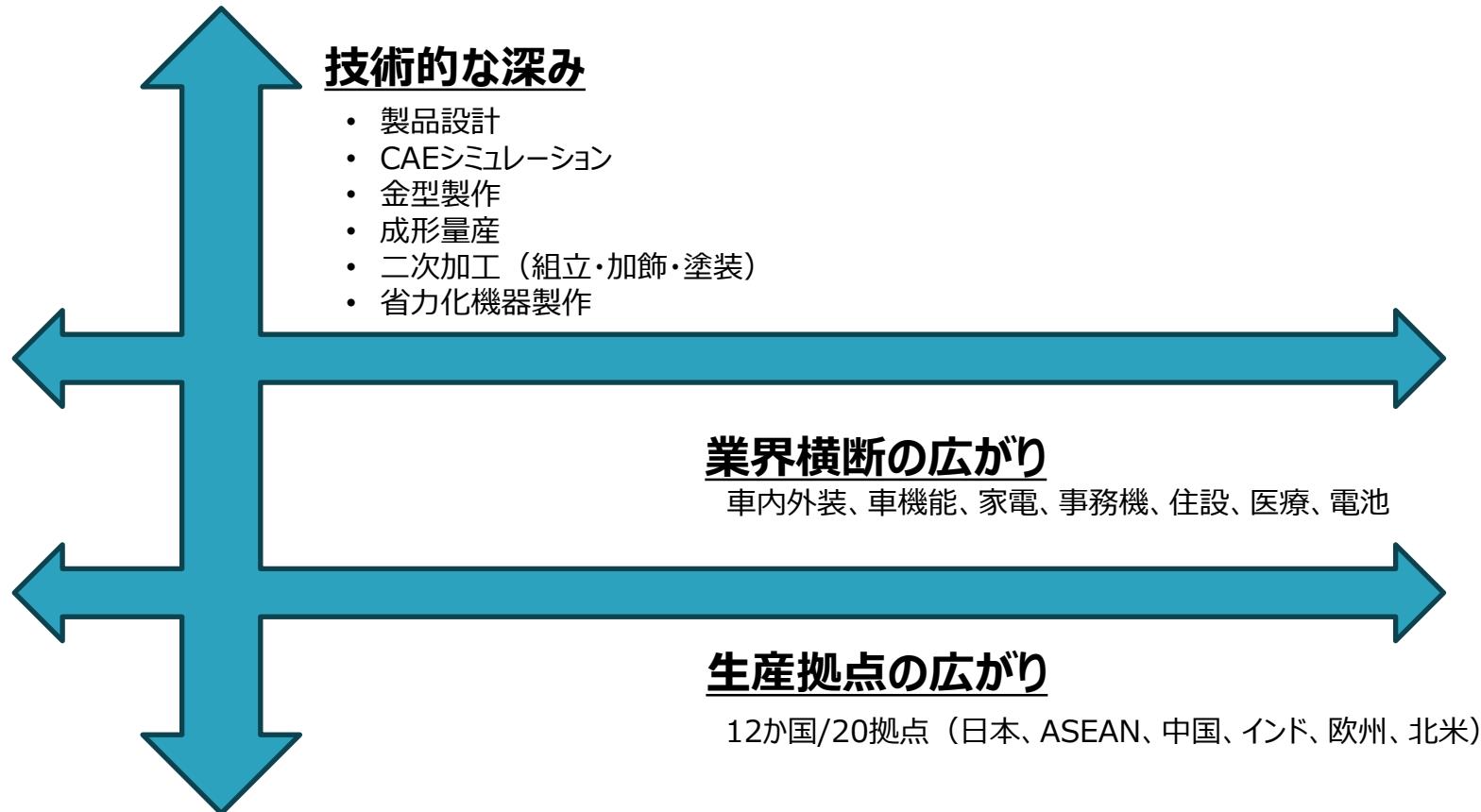
安定的な配当を継続していくと  
同時に、業績に応じ積極的に  
株主に還元

内部留保資金

競争力の維持・強化や  
経営基盤拡充のため、  
設備投資や開発活動に充当

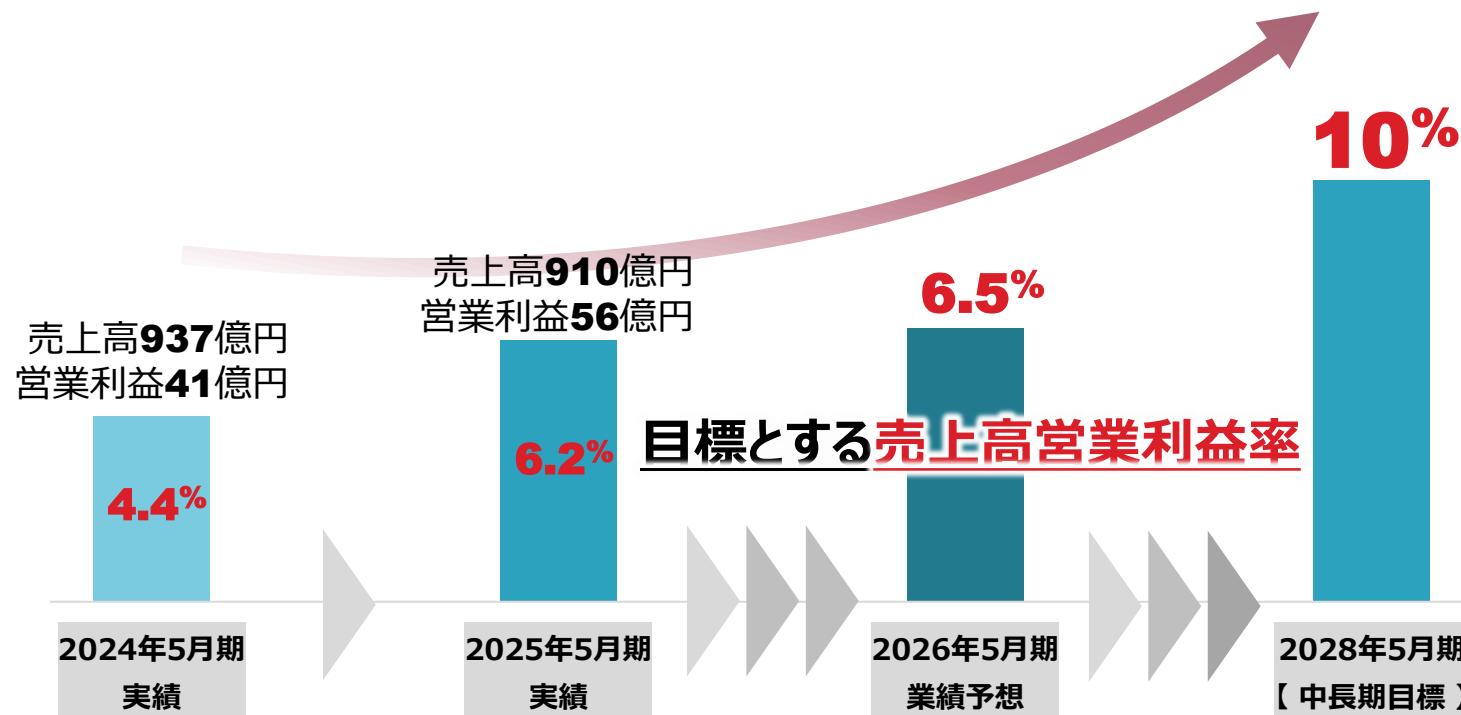
## IV 中長期の取組み

三光合成の強みを生かし、持続的な增收増益で、ステークホルダーの期待に応える  
強みは、三光合成ほど“深みと広がりがあるプラスチック専門メーカー”は  
世界に存在しないこと Only One



# 目標 10・10・10 “トリプル10”

売上高 **1,000** 億円・営業利益 **100** 億円・営業利益率 **10%**

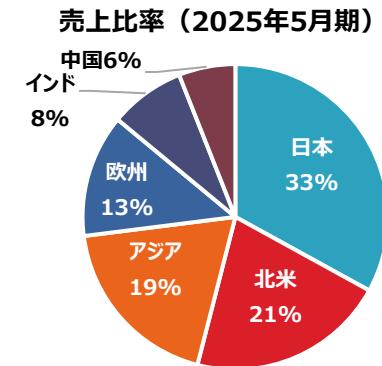


## 2025年5月期の成功（増益）パターンを強みへと進化させる

### 三光合成の成功パターン

#### ● 特定拠点に集中せず、グローバルで稼ぐビジネスモデル

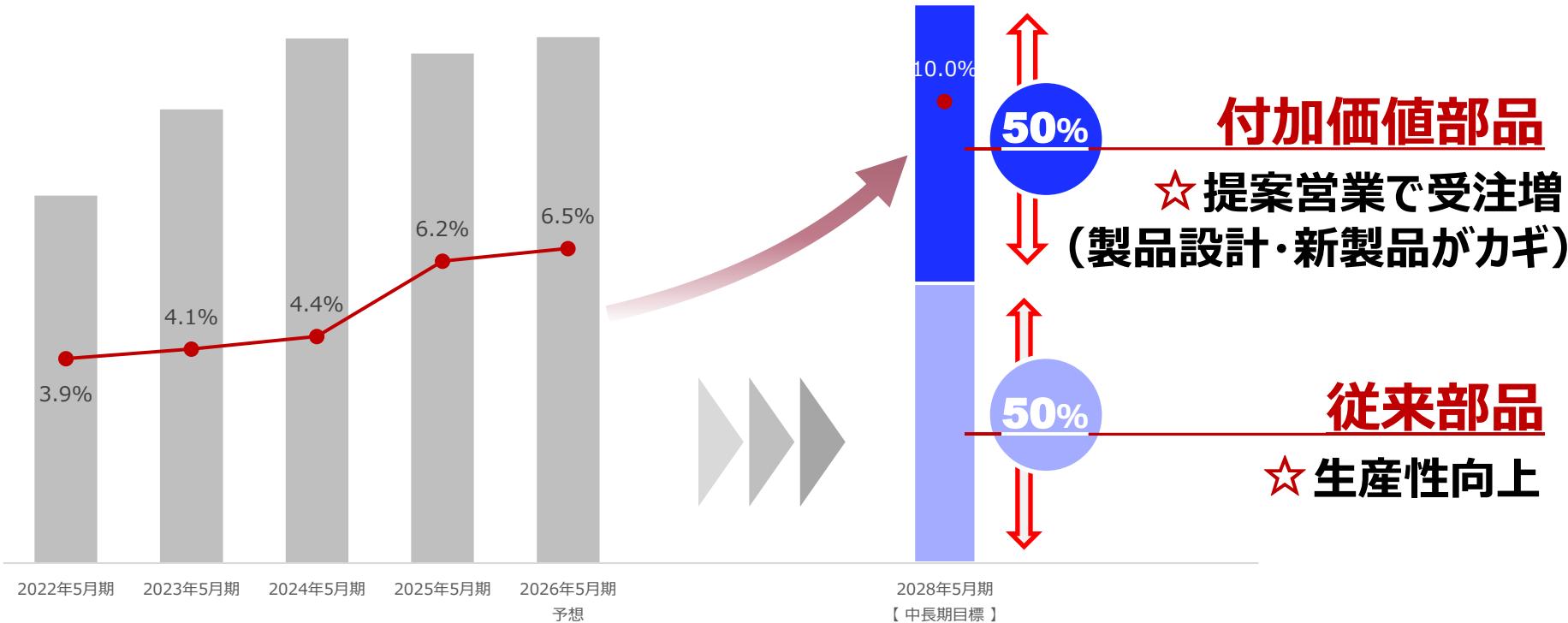
- ・2025年5月期は、日本・北米が利益をけん引し、全拠点が営業黒字
- ・時流に合わせメリハリをつけた戦略  
北米・インド：積極投資  
中国：武漢の日本人駐在を撤収



#### ● 日本で確立した生産性向上の施策（生産性2倍活動）をグローバルに展開

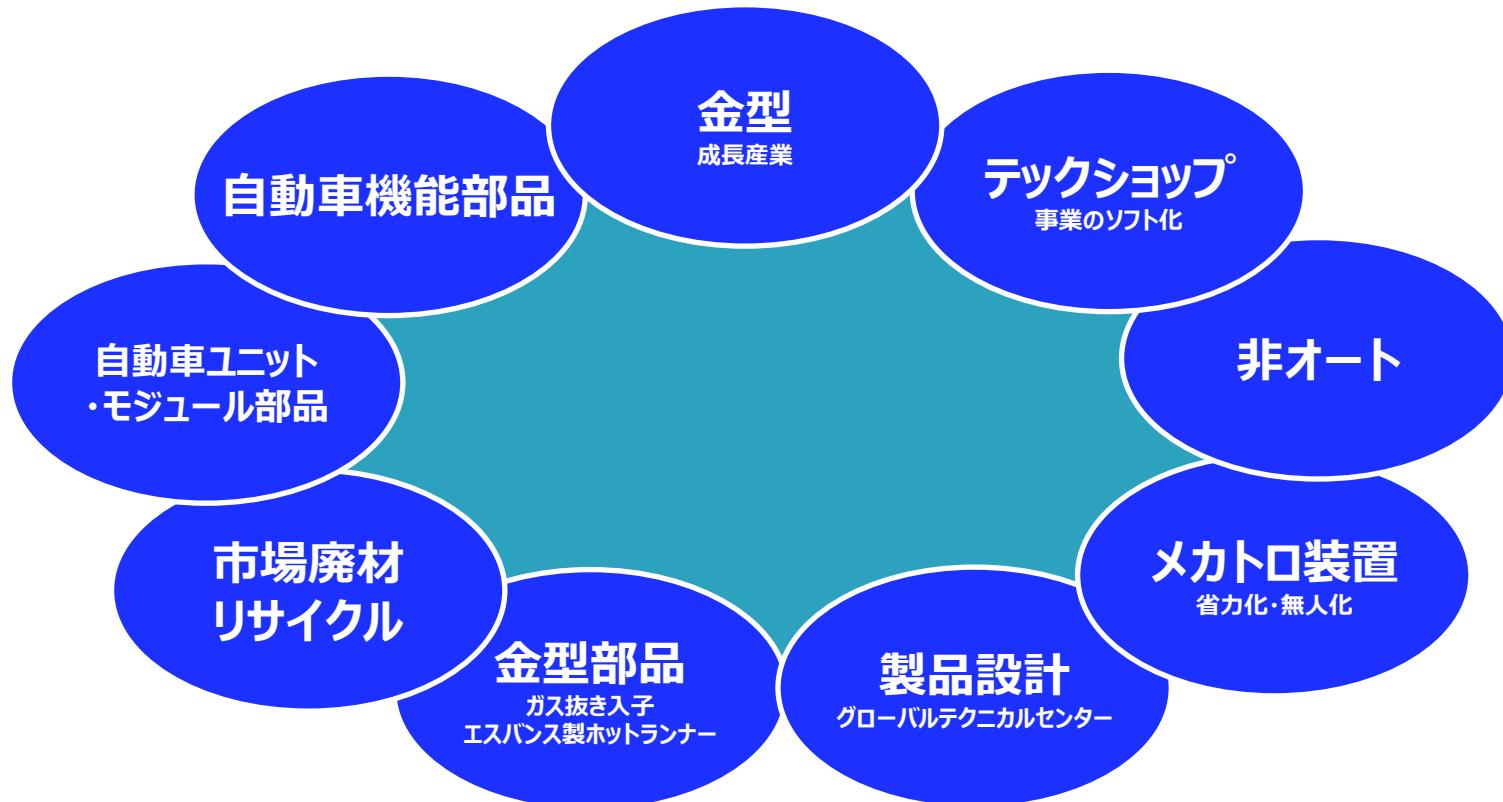
- ・日本の工場は海外ベンチマークを目指す。海外も改善余地はまだまだ大きい
- ・日本の生産準備部隊が海外拠点の採算性を重視した新製品の量産立ち上げを行い、その対価として経営指導料を貰うビジネスモデルを確立

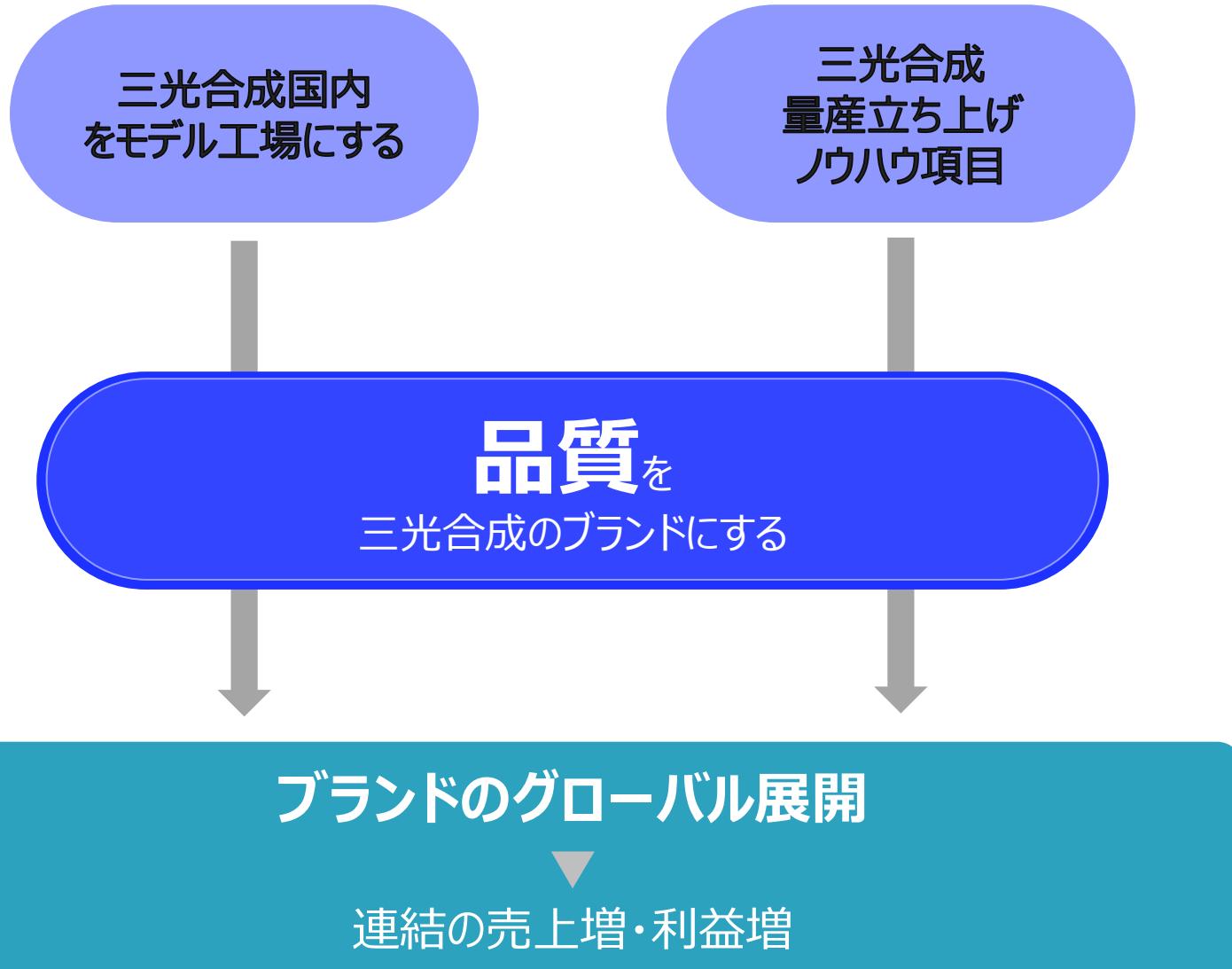
## 中長期目標 売上高営業利益率10%に向けて目指す売上構成



- 付加価値部品：  
“生産ノウハウをベースにした製品設計力”と“業界横断のグローバルでのトレンド情報”、“新製品”をテコに顧客に提案営業
- 従来部品：  
“製品設計”と“生産革新”的複合で時間当たり&1人当たり生産数倍増（生産性2倍活動）推進

## 営業力強化・受注増を目指す製品候補







## 1. アメリカ生産能力拡張

北部インディアナ増設（～2026/7）

南部アラバマ周辺M&A検討中（～2028/5）



## 2. インド生産能力拡張

グジャラート増設／デリー新工場

／チェンナイ新拠点（2025/2～順次着工予定）

## 3. チェコ生産能力拡張

建物拡張（2025/3着工予定）

## 4. 伊勢崎外装塗装ライン新設

中・大物外装部品対応・塗着率向上の  
新鋭設備導入（～2027/11）

## ① 北部 | 既存インディアナ工場拡張

- 投資総額：約**70億円**
- 期 間：2025年4月 ▶ **2026年7月**
- 建屋拡張：10,000m<sup>2</sup> ▶ **21,000m<sup>2</sup>**
- 設備増強：大型成形機追加等



◆ インディアナ工場 拡張中  
SANKO GOSEI TECHNOLOGIES USA, INC.



## ② 南部 | アラバマ周辺でM&A【検討中】

- 状 況：複数候補から選択中
- 目 的：南部での供給・顧客対応力拡張
- 投資想定：**50億円～150億円**
- 完了計画：2027年～**2028年5月**

- 投資総額：約 60 億 円
- 期 間：2025 年 2 月 着工～2027 年（順次着工予定）
- 対 象：グジャラート／デリー近郊／チェンナイ近郊



## ① グジャラート | 既存工場拡張

- 内 容：既存グジャラートの工場拡張
- 規 模：新倉庫 **5,000m<sup>2</sup>**
- 主要投資：大型成形機2台／外装塗装ライン



① グジャラート工場

## ② デリー近郊 | 新工場建設

- 内 容：ジャジャールで新工場建設
- 規 模：成形&金型工場 **14,500m<sup>2</sup>**
- 主要投資：大型成形機1台／機能品精密成形機2台／内装華飾加工機／ソフトバッド加工ライン



② ジャジャール土地

## ③ チェンナイ近郊 | 生産委託拠点新設

- 内 容：スリシティーで生産委託拠点を新設
- 対 象：家庭用・業務用エアコン部品生産



③ スリシティー委託生産

- 投資総額：約40億円
- 期間：2025年3月着工▶2028年7月量産開始
- 生産キャパシティ拡大

建屋面積

16,000m<sup>2</sup>

6,000



現在



拡張後

成形機台数

16台

6



現在



拡張後

・建屋：+10,000m<sup>2</sup>  
(2.7×)

・成形機：+10台  
(2.7×)



◆ SANKO GOSEI Czech, s.r.o.

- ターゲット：自動車メーカー（BEV・HEV 新規生産対応）
- 生産品目：内装・外装部品（「2色成形」を含む）

- 投資総額：約10億円
- 期間：2025年3月着工 ▶ 2027年11月量産開始
- 投資内容：外装塗装ライン新設  
(塗着率向上に資する新鋭設備を導入)
- 対象：国内車メーカー向け 中・大物外装部品  
に対応
- 期待効果：



◆伊勢崎工場（外装塗装ライン新設）

## 品質

外観品質の安定化  
／不良・手直し低減

## 原価

塗着率向上 = 材料ロス低減  
／工数削減

## 供給

中・大物対応強化  
／量産立上げの再現性向上

- 将来展開：伊勢崎で確立した仕様・運用を、将来的に国内外拠点へ横展開



## ■富山県SDGs宣言

基本理念「自然との調和に努める」 | 私たちは、当社の製品が全世界で使用されているという認識のもとに、地球環境と地域社会との共生を目指し、環境保全に配慮し、改善を継続する事業活動を行います。

取組  
目標

社員のモラル向上、精神面鍛錬、  
そしてお客様へのおもてなしにつなが  
る活動の継続

Action

### 全員参加のトイレ掃除

海外、国内各工場において  
経営層から社員まで全員参加のトイレ清掃で  
世界一綺麗なトイレを目指す。



取組  
目標

プラスチック製品や樹脂材料を海や  
陸に廃棄しない

Action

### 成形不良品のリサイクル

廃棄向け樹脂製品を粉碎し  
再生樹脂材料として使用しリサイクル率を高めていく。  
最終処分場までのトレーサビリティにより  
ライフサイクルの視点で責任を持つ。



取組  
目標

人権を尊重し、社員のダイバーシティ  
を推進

Action

### ダイバーシティを推進

女性、高齢者、障がい者、外国人の柔軟な雇用と  
働きやすい職場環境を維持改善する。



## ■カーボンニュートラルに向けた取り組み

- ① 日常改善による省エネを推進します。
- ② **再生可能エネルギーを活用します。**
- ③ 生産技術の開発、導入による省エネを推進します。



- ④ 樹脂材料、リユース、リサイクルを推進します。
- ⑤ 不良率低減を含む廃棄物削減を目指します。
- ⑥ 工場および関連施設の緑地化を推進します。

## ■再生可能エネルギーの受電開始

- ・化石燃料の全体に占める割合：国内工場での電力使用量総合計の40%を達成（2030年目標を前倒しで達成）
- ・2026年秋 子会社三光合成九州株式会社に太陽光パネル設置予定

富山工場の屋根に太陽光パネルを設置



北陸電力が販売する再生可能エネルギーを活用したメニュー「かがやきGREEN」へ加入



「かがやきGREEN」の加入証明書  
(富山工場・テクニカルセンター・大窪工場)

## ■コンプライアンス研修の推進

社内：階層別研修の充実を図り、会社全体の教育カテゴリーを考察し拡大実施中。

外部：1次サプライヤーに向けて研修を実施中。

## ■女性活躍推進に向けた取り組み

当社は令和5年度の「とやま女性活躍企業」に認定されました。

「とやま女性活躍企業」とは、企業の成長とウェルビーイング（真の幸せ）の実現に向けて、女性が活躍する県内企業等を県が認定する制度です。



### 選定基準

- ① 女性の管理職比率 → 産業ごとの全国平均値以上
- ② 時間外労働等の時間数 → 各月ごとに全て45時間未満
- ③ 女性活躍推進に向けた取組み → 具体的な取組みを1つ以上行っている
- ④ 企業内の男女共同参画を進めるチーフ・オフィサーを設置しているほか

### ◆三光合成株式会社

南砺市土生新1200番地

令和5年度認定

女性の活躍へ向けた中期的な視点で人材育成をすすめると共に、男性の育児休暇取得や、働くお母さんの、育児を含めたワークライフバランスに注力している会社です。



常時雇用労働者数 929人

女性管理職比率 8.4%  
女性管理職数 9人

## ■PBR1倍超に向けた取り組み

### 現状分析

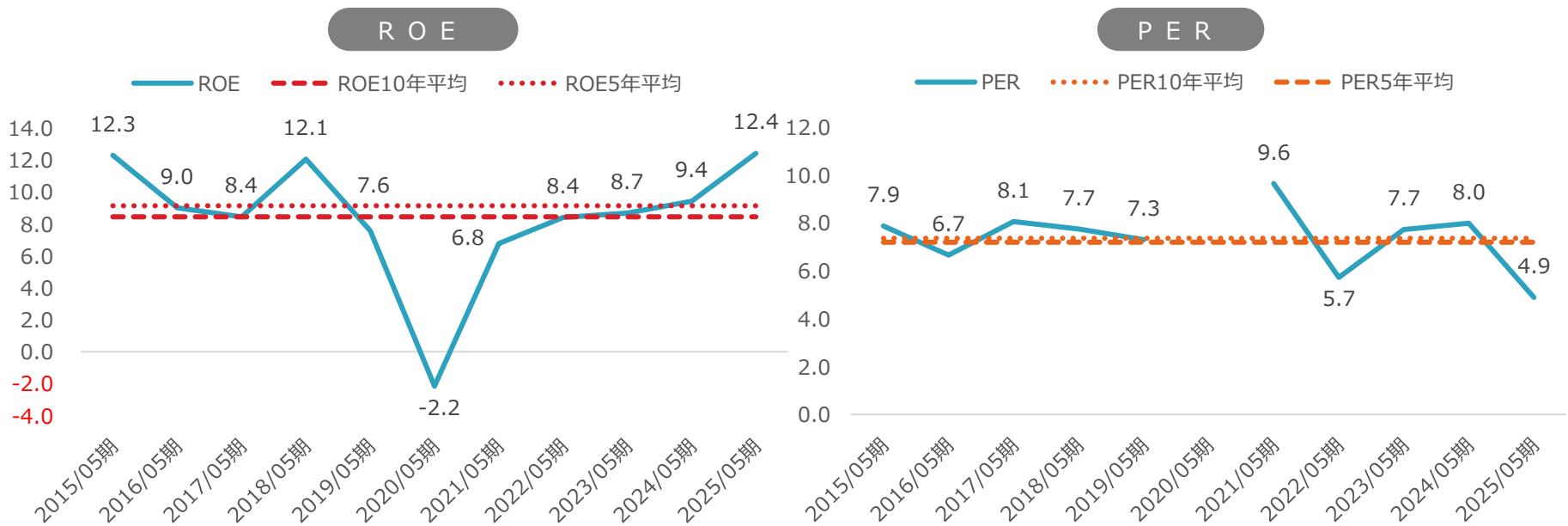
現在、PBRは0.6倍と、依然としてPBR1倍を下回っている状況

ROEは過去10年平均で約8%、その一方でPERは7倍後半で推移

### 今後の取組み・方針

ROE：中期目標の営業利益10%を達成することで、ROE向上を目指す

PER：IR活動の強化により、PERの改善を目指す





このプレゼンテーションで述べられている三光合成株式会社の業績予想、計画、事業展開等に  
関しましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき判断したものです。

マクロ経済や当社の関連する業界の動向、新たな技術の進展等によっては、大きく変化す  
る可能性があります。

従いまして、実際の業績等が本プレゼンテーションと異なるリスクや不確実性がありますことを  
ご了承下さい。また、大きな変更がある場合は、その都度発表していく所存です。